

創造性を育む～年中児の探求する姿から～

2019年度 武蔵野東第一第二幼稚園 年中研究部

研究のわらい

2017年度に教師の援助と環境の工夫により、年齢の発達に応じて創造性にかかわる育ちの変化がみられることがわかった。

翌2018年度に年少時にたくさんの体験や経験を積み重ねたことが創造性の原動力となる好奇心が育まれることをまとめた。

今年度は、好奇心が育まれた子供たちが、年中時にはどのような場面で創造性が見られるのかを追う。

研究方法

- ・積み木遊びとごっこ遊びをしている場面に視点を絞り、写真を添えたエピソードを2か月に1回集める。
- ・創造的な場面を報告し、その時期の子供の育ちをまとめる。
- ・それぞれの教師がとらえた場面を共有し、幼児理解を深めていく機会にする。



エピソード報告用紙

エピソードから

1学期

それぞれのエピソードを『もの』『ひと』『環境』『援助』の4つの視点から育つ創造的な子供の姿を考察した。

ものとのかわり 人とのかわり

環境構成 教師の援助

創造的な姿



おままごと一緒にやろう



こうしたらいいかな

見てすぐに使い方がわかる玩具を好む

慣れ親しんだ友達と関わる

新しい素材や道具に興味を持つ

興味関心が同じ友達と関わる

遊びが分かりやすいようにマットなどを敷く

安心して過ごせるように思いに共感して声をかける

遊びの様子を見ながら保育室内で適当な場を確保する

片付けることも楽しくなるような声をかける

自分たちで役を決めて遊びを展開していくことを楽しむ

いろいろな形の積み木を組み合わせ作り上げていく楽しさを味わう

2学期前半

どっちが高く積めるかな



ずれないように調節しよう

ベッドで寝てるの



赤ちゃんが生まれたの

素材や道具の特性を知る

競うことを一緒に楽しめる仲間と関わる

自分のイメージを本物に近づけようとする

友達の経験を聞いて遊びに取り入れる

遊ぶ意欲がさらに高ま察に必要な道具を用意する

以前に作ったものと比較できるように写真を用意する

イメージが広がるようにタオルなどを用意する

子供が発想し表現することを認める

どうやったらもっと高くなるか、と工夫することを楽しむ

既存のものと自分の経験とを重ね合わせて使い方を応用する楽しさを感じる

2学期後半

この中を電車が通るんだ



僕たちで商品を作ったんだ



これ、ください

素材の特性を把握したことでアレンジして遊ぶ

言葉でやり取りしながらイメージを共有する

遊びながらイメージをさらに広げよう工夫する

役割を友達同士で分担しながらごっこ遊びを楽しむ

イメージを実現できるような素材を用意する

本人のやりたい気持ちを読み取る

子供たちだけで遊びが展開できるように準備する

イメージが膨らむような声をかける

経験値から建物の中の構造もイメージして創作していく喜びを味わう

本物に近づけるためにどうしたらいいのか考えて製作する楽しさを味わう

まとめ

一人一人の好奇心に働きかけるために、個々の興味や育ち、季節やクラスの状況に合わせて、保育者は遊びの環境を変化させてきた。すると、次第に観察力もつき、様々なことに目を向けられるようになっていった。こうして経験してきた多くのことを重ね合わせる力が、創造的な活動につながっている。

今年年中研究部では「遊びを通して育まれる創造性」について追ってきたが、多様な場面で創造的な姿は見られる。今年度の実践を通して、遊びや生活の様々な場面で適時・適宜な環境を整えることの大切さを改めて認識することができた。

